

## 指導者（保護者）として大切にしたいこと（その7）

2019年9月

広島地区ミニバスケットボール連盟

副会長 大庭 浩 資

広島地区ミニバスケットボール連盟の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

各チームにおかれましては、全国大会地区予選に向けて練習にも力が入っていることと思います。それぞれの試合において、練習の成果が十分に発揮できますことをお祈りいたします。

一方で、9月も中旬が過ぎたというのに、まだまだ暑い日が続いています。選手の安全を第一に、熱中症対策には十分ご配慮いただきますようお願いいたします。

さて、先日の新聞に以下のコラムが載っていました。

「教育虐待」というと、ミニバスケットボールの指導には、直接当てはまらないと思いますが、内容の中に、「あるべき姿」とか「あなたのため」とか「自分の思いこみ」とかの言葉がありました。

これはミニバスの指導においても、家庭教育においても、重要なキーワードになるのではないかと思いますこのコラムを紹介します。

中国新聞 2019年9月3日（火） 「暮らし」の覧

### 無理やりに勉強「教育虐待」

～ 名古屋の父親による小6長男刺殺事件から3年 ～

教育ジャーナリスト おおたとしまさ さん

なかなか勉強を始めなかった。それだけの理由で中学受験生が刺殺された。（中略）

まず包丁で刺したから虐待なのではなく、脅して無理やり勉強させていたこと自体が教育虐待である。そして、教育虐待をしてしまう状況にある親が子どもに中学受験をさせるのが危険であって、中学受験が教育虐待を招くのではない。そのような親は中学受験が終わっても教育虐待を続けるし、現に教育虐待は高校受験でも大学受験でも起きている。

とはいえ親だけを悪者にすれば解決する問題でもない。いまだに学歴によって人の価値を判断する風潮が強く「いい学校」に入れることが、「いい教育を与える」ことだと錯覚され、いい学校に入れるためには親が頑張らなければいけないとメディアがあおる。この社会的状況自体が教育虐待の温床になっている。

「あるべき姿」ばかりを追い求め、目の前の子どもが見えなくなるところから悲劇が始まる。どんな犠牲を払ってでも「あるべき姿」に近づけてやるのが「あなたのため」だと思ってしまうと危ない。

健康を気遣う人が冗談で「健康のためなら死ぬ」と皮肉を言うことがあるが、「いい教育」のために教育虐待をするのは、冗談にはならない皮肉である。

「あなたのため」が口をついて出そうになったら、二つのことを考えてみてほしい。「自分の失望や不安が押さえられないだけではないか？」  
「自分の思いこみを押しつけているだけではないか？」。

該当するなら、「あなたのため」ではなく「自分のため」である。

子どもの勉強を見ていてつい感情が高ぶりそうなら、「自分は今、溺（おぼ）れているんだ」と思ってほしい。即座に口を閉じ、手足を落ち着かせる。もしそのようなことが何度も続くなら、勉強を見ないと決めること。子どもが自分なりの頑張りで取ってきた成績を見て「君の頑張りを誇りに思うよ」と心底認められる親になれば、いずれ子どもは自ら頑張れる人に育つ。

それでもやり過ぎてしまったなら、子どもに謝り次から改善すればいい。「自分は教育虐待しないだろうか？」と不安に思う感性があるのなら大丈夫。

子どもを壊すほどひどい教育虐待に至るのは、親に迷いが無いケースがほとんどなのだ。

いかがでしょうか？

私自身、ミニバスの指導において、『ミニバスが上手になるには、「プレイはこうあるべき」と「自分で思いこみ」、そして「あなたたちのために」教えているんだよといった指導をしてはいないか』と自らを振り返ることができた内容でした。

「言うは易く行うは難し（いうはやすくおこなうはかたし）」ですが、ミニバスの指導においても、家庭教育においても、このようなことは、ほんの少しでも頭に入れておきたいものですね。

皆様方におかれましては、また何かの話題にさせていただいたり、ご意見や感想をいただければ幸いです。

今後ともよろしく願いいたします。